

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji>

加藤正利氏 全国漁業者交流大会で水産庁長官賞受賞！

平成29年3月1日～2日に、ホテルグランドアーク半蔵門において、第22回全国青年・女性漁業者交流大会が盛大に開催されました。(有)柴崎養鱒場の加藤正利氏と内浦漁協チーム IKSの土屋真美氏が、静岡県代表として発表し、各部門においてそれぞれが水産庁長官賞を受賞しました。受賞後には、静岡県知事や市長への受賞報告も行われ、その様子はマスコミ等にも多数取り上げられました。本紙では、受賞のお祝いも込めまして、加藤氏の発表の概要や受賞後の動きなどを紹介します。

発表の概要

(演題)

『ピンチをチャンスに変えた機械化の取組-
養殖の労働力不足を補う機械や施設の自作-』

(要旨)

富士宮市は、富士山の豊富な湧水に恵まれ全国1位のニジマス生産量を誇っています。しかしながら、養鱒業は冷水中で行う労働も多いため、労働力確保や健全な労働環境の維持が課題となっています。

加藤氏が勤務する(有)柴崎養鱒場は、ニジマスを中心に年間150トンの生産をあげる大手養殖業者でしたが、昭和40年代後半に労働力が半減(7名→4名)してしまったことを受けて、生産量の減少と労働環境の悪化が顕著となりました。そこで、加藤氏は、養殖現場に即した機械化による労働力補填を考え、板金や溶接、小型フォークリフト、コンピュータ支援設計(図1)などのスキルアップに努めつつ、トラック一体型自動給餌機(図2)など多種多様な省力化機器を自ら開発、製作するとともに、生産



図1 CADで図面を引く加藤氏

昭和55年からパソコンの技術習得に努め平成8年にはCADによる図面設計を始めた。これまでの作図は優に1万枚を超える。



図2 トラック一体型自動給餌機

給餌機をトラックと一体化した省力化機器。運転席のスイッチで、餌の放出口や2種類の餌の切り替えが可能。悪天候での作業も容易で、給餌器への餌の充填時間も短いため、作業効率が飛躍的に向上した。以前は給餌の一連の作業に1人工が必要であったが、現在は1時間の作業で作業を終えることが可能となった。

性の高い施設も整備していききました(図3)。これらの取組により労働力不足は解消され、3名で150トンの生産をできるまでに回復しました。開発した省力化機器は広く公開し、他業者への普及販売も行うことで業界へも貢献しており、また省力化により生じた時間を活用することで自社商品の製造販売などの6次産業化(図4)や養殖管理手法の高度化を進めて業界を先導してきました。

養殖業者自らが機械等を自作する取組は全国的にも類を見ないものであり、その姿勢も含めて、他の漁業や養殖業界の経営改善にも役立つヒントが数多く含まれていると評価されます。



図3 二階建て種苗生産施設

着想から完成までに4年の歳月を要した施設。飼育池を2階建てにし、自走式の自動給餌機も設置することで生産性を向上させた。自作することで製作費を1/5に圧縮させた。施設稼働によりニジマスの年間生産量を30~40トン(約1,000万円)増やすことに成功した。



図4 大型ニジマスの燻製づくり

機械化による省力化と効率化は余剰時間をもたらし、加藤氏の長年の夢であった6次産業化の実現に貢献した。

全国大会での様子

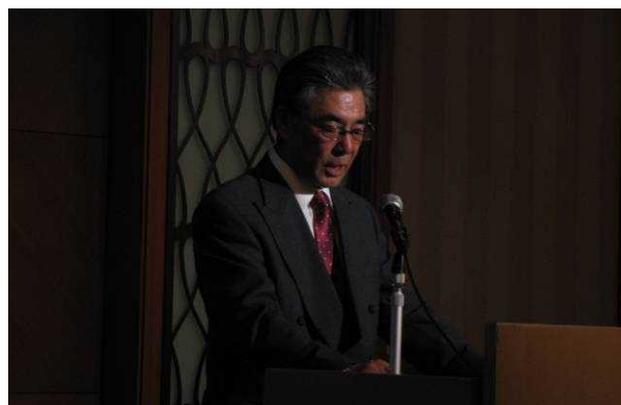
(発表日) 平成29年3月1日

(分科会) 第2分科会 漁業経営改善部門

(発表補助者) 富士養鱒漁協 伊賀由美子氏

合計9題の発表があった第2分科会で、トップバッターを務めました。多少の緊張は伝わっていましたが、時間を順守した堂々の発表で、パソコン補助者との息もピッタリでした。練習の成果が良く出ていたと思います。3名の審査委員からは矢継ぎ早に質問が出されましたが、テキパキと回答されていました。

大会場に移っての審査委員による講評では、加藤氏の特異的な取組が長く紹介され、海面養殖業なども大いに参考にしてほしいとの講評が述べられました。その後の結果発表では、惜しくも農林水産大臣賞は逃したものの、次点となる水産庁長官賞の受賞となりました。



発表中の加藤氏

受賞後の反応

長官賞受賞報告のため、富士宮市長や静岡県知事を訪問しました。その様子は、マスコミ各社で報道され、紙面等を大いに賑わせました。

・3月28日 富士宮市長訪問 …3社報道

・3月29日 静岡県知事訪問 …4社報道

また、業界組織である全国養鱒振興協会は、毎年3月に行う消費普及担当者研修会に加藤氏を講師として招聘し、交流大会の発表を改めて行いました。

・3月15日 養鱒振興協会研修会…3社報道

さらに、地元誌の岳南朝日新聞は、加藤氏自身に焦点を充てた特集記事を掲載しました。

・4月13日 岳南朝日新聞「ヒューマンストーリー」

今後の予定

一般社団法人海洋水産システム協会発行の「海洋水産エンジニアリング 134号（7月号）」に、発表原文が掲載されます。

また、再来年に開催される全国養鱒振興協会第51回大会で口頭発表が予定されています。

おわりに

これまでの漁業者交流大会では、静岡県から計37題を発表してきました。このうち、第18回大会からは連続して水産庁長官賞を受賞しており、今回で5大会連続の受賞となりました。ただし、これまでに漁業経営部門での受賞はありませんでしたので、加藤氏の受賞は静岡県初の快挙です。

全国的に類を見ない加藤氏の長年の取組が評

価されたことは、発表を支援した水産技術研究所としても大変喜ばしく、今後、養鱒業界だけではなく広く水産業界に貢献していくものと期待されます。

最後になりましたが、加藤様、長年の取組と成果発表、大変お疲れでした。また、水産庁長官賞受賞改めておめでとうございます。益々の御活躍を期待しております。

発表全文は、JF全漁連のウェブサイト全国青年・女性漁業者交流大会資料よりダウンロード可能です。取組に興味をお持ちの方は是非ご覧ください。

(<https://www.zengyoren.or.jp/ninaite/kouryu/index.php?awd%5B2%5D=1&fwd=&pid=1>)

(鈴木邦弘)

トピックス

富士川四ヶ郷堰魚道評価委員会の設置

富士川のアユ資源や環境について、調査報告会(本誌230号)やシンポジウム(本誌231号)の開催状況を報告してきました。その中では、「長期的な濁り」と「河川横断物」の2点が大きな問題として指摘されています。今回、河川横断物の問題に対して、新たな動きがありましたので報告します。

富士川には、河口から4.5km上流にコンクリート固定の四ヶ郷堰(堰長350m、堰高4.1m)が設置されており、その兩岸には魚道が整備されています(図1)。この魚道の機能を適正に評価することを目的として、「四ヶ郷堰魚道評価委員会」が平成29年3月に発足しました(図2)。常葉大学山田辰美教授を委員長として、学識、国交省、静岡県、富士市、富士宮市、静岡市、漁協、愛好家、利水者を委員とし、当场長の平井も委員となっています。また、事務局としても、当時は深く関わっています。本委員会は、4~6月の魚道調査と3回の検討会を経て、9月頃までに機能評価を終了する予定です。

昨年には予想もしていなかったほどの速さで、富士川的环境に対する取組が進められています。

今後とも、より良い方向へ進むことを願ってやみません。魚道評価の結果については、改めて報告させていただきます。(鈴木邦弘)



図1 四ヶ郷堰左岸魚道の様子



図2 第1回検討委員会の様子

第 28 回にじます祭が開催されました

平成 29 年 3 月 5 日に、富士山本宮浅間大社となりの神田川ふれあい広場を会場に、第 28 回にじます祭が開催されました。

前は祭の刷新を狙い企画会議を重ねて新企画を打ち上げました。今回は更なる盛り上がりを目指し、地元富士宮の有名人『たけのこ王』こと風岡直宏さんや、富士宮プロレス（宮プロには「ニジマス戦士 エル・トラウト・ザ・レインボウ」がいるんです）にゲスト出演いただき、「ニジマスちゃんちゃん焼き」の調理実演や、「湧幻鱒つかみどり対決」で大変盛り上がりしました。

富士養鱒場のブースでは、ニジマス稚魚とのふれあい企画として新企画「稚魚すくい」を行い、たくさん子どもたちに楽しんでもらいました。

また、ステージで行われた地元小中学生による富士山学習の発表では、第二中学校の加藤君の発表がありました。彼は、小学生の頃から当場が行う夏休み親子水産教室に 6 年連続参加してくれていました。そんな彼がニジマスについて詳しく丁寧に話をしてくれたことに、職員一堂大変うれしく感じました。

さて、にじます祭はここ 10 年ほど 3 月に開催していましたが、やはりニジマスのつかみどりやバーベキューを楽しんでいただくには夏が一番だ!!と、次回、第 29 回は今年の夏に開催予定です。暑い夏の日差しの下、富士山の水の恵みを感じていただければと思います。

次回も是非遊びにきてください。

(佐藤孝幸)



富士山も喜んでる!?“大賑わいの祭り会場”



何匹すくえたかな?“にじます稚魚すくい”



美味しいよ～ “ちゃんちゃん焼き”



“にじます博士”加藤君による発表

第 28 回にじます祭の様子

人事異動

(転出)	主任 鈴木大樹	→	畜産技術研究所	主 査
(転入)	主任 古郡良輔	←	健康福祉部障害福祉課	主 任

転入者自己紹介

4月から富士養鱒場に転入しました古郡良輔（フルゴオリ リョウスケ）です。こちらでは総務事務を担当することになりました。

マスやその試験研究については知らないことばかりで、皆様に教えていただきながら、大変刺激的な日々を過ごしています。

業務の枠にとらわれず、幅広い知識や経験を得ることで、担当業務に生かしていけたらと考えています。

どうぞよろしく申し上げます。



業務紹介

研究では、ニジマスの大型魚を低コストで生産する技術を開発する新成長戦略研究が昨年度に終了しました。その研究により得られた技術を生かして本年度より遺伝育種によりベジタリアンニジマスの作出を目指した新成長戦略研究と養鱒業に甚大な被害を及ぼすIHNの根絶に向けた研究を新たにスタートさせました。

3年後の平成31年度には低コストで生産可能な外観も良いベジタリアンニジマスの種苗の試験配布ができるよう、また、IHNによる被害が軽減されるよう研究を進めていきたいと考えて

おります。

普及指導では、これまでと同様に県内外の有用な研究成果や参考となる活動等について適切に情報発信していきます。

また、「紅富士」の供給体制の強化やニジマス生産に必須な冷水病やIHNなどの疾病による初期減耗対策に重点的に取り組むと同時に、昨年度にとりまとめた「アユの総合的な放流指針」の普及などをおして養鱒業界や河川漁協の経営向上に寄与したいと考えております。

(平井一行)

職	氏名	主な担当業務
場長	平井一行	富士養鱒場業務の総括
主任	古郡良輔	予算・庶務、観覧業務、庁舎等の保守管理
上席研究員	鈴木基生	試験研究の企画調整、新成長戦略研究統括 冷水性淡水魚類養殖研究
主任研究員	木南竜平	ニジマス新成長戦略研究（遺伝育種によるベジタリアンニジマスの作出） IHNの根絶に向けた研究
主査 (普及指導員)	鈴木邦弘	ニジマス新成長戦略研究（「紅富士」供給体制の強化） 普及指導（6次産業化、内水面漁業、広報）
主査 (普及指導員)	佐藤孝幸	普及指導（養鱒業における初期減耗対策・指導） 魚類防疫対策（内水面養殖、海面養殖、内水面漁業）
非常勤職員	植松久男	試験研究補助、飼育管理、場内管理
非常勤職員	植松新造	試験研究補助、飼育管理、場内管理

富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) : mm (日)		湧水量 : 万 t /日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
2	80 (5)	102 (8)	3.16	3.12
3	102 (11)	203 (9)	2.35	3.43
4	298 (11)	237 (10)	3.00	4.51

* 前年以前の20年間平均値

日誌

2月	3月	4月
1-2日 6次化先進地視察 (香川・兵庫)	1-2日 全国漁業者交流大会(東京)	4日 四ヶ郷魚道調査(富士)
1-3日 にじます流通実態調査 (福岡・熊本)	3日 分場長会議(焼津)	7日 分場長会議(焼津)
2-3日 アユ資源研究部会(東京)	3日 マーケ課担当者会議(県庁)	11日 機能性食品打合せ(静岡)
3日 漁業士会総会(浜松)	3日 6次化ネットワーク連絡会(県庁)	11日 養鱒漁協職員月例会
6日 食のワークショップ 水産編(御前崎)	3日 内水面研究成果報告会(東京)	11日 防災担当者会議(沼津)
6日 広域浜プラン担当者会(焼津)	5日 第28回にじます祭(市内)	12日 ヒラメ VNN 検査
6-7日 普及指導員研修(東京)	7日 広域浜プラン水産庁ヒア	13日 東部危機管理会議(沼津)
10日 機能性食品打合せ(静岡)	7日 伊豆巡回	14日 紅富士会議準備会
10日 新成長研究報告会(県庁)	9日 普及成果報告会(焼津)	14日 漁業士会役員会(静岡)
14日 新成長研究報告会(県庁)	10日 養殖衛生推進会議(東京)	17日 財務会計研修(県庁)
15日 普及月例会(焼津)	10日 富士川調査打合せ(富士)	18日 伊豆巡回
16日 一般研究評価会(焼津)	14日 香川県漁連視察対応(市内)	18日 コンプライアンス研修(静岡)
17日 養鱒協運営委員会(東京)	15日 養鱒漁協職員月例会	19日 会計事務研修会(藤枝)
17日 遺伝子実験検討会(焼津)	16日 普及設定協議会(焼津)	19日 普及月例会(焼津)
18-19日 食の都の祭典(静岡)	21日 魚病対策委員会(静岡)	19日 新成長研究打合せ(焼津)
20日 紅富士プラ推進協(市内)	21日 養殖安全対策検討会(静岡)	24日 マーケ課担当者会議(静岡)
21日 養鱒漁協職員月例会	22日 広域水産再生委員会(富士)	25日 にじます祭委員会(市内)
22日 にじます祭実行委員会	22日 アマゴ資源調査(市内)	26日 内漁連役職員研修会(静岡)
23日 にじます祭打合せ	23日 富士川四ヶ郷委員会(富士)	27日 新規県単研究打合せ(浜松)
24日 第250回技連(浜松)	26日 水産増殖懇話会発表(東京)	28日 水産事業概要説明会(静岡)
28日 普及打合せ(県庁)	28日 交流会市長報告(市内)	
	28日 山梨水試来場	
	29日 内水面漁協巡回(浜松ほか)	
	29日 交流会知事報告(静岡)	
	30日 新成長研究打合せ(場内)	